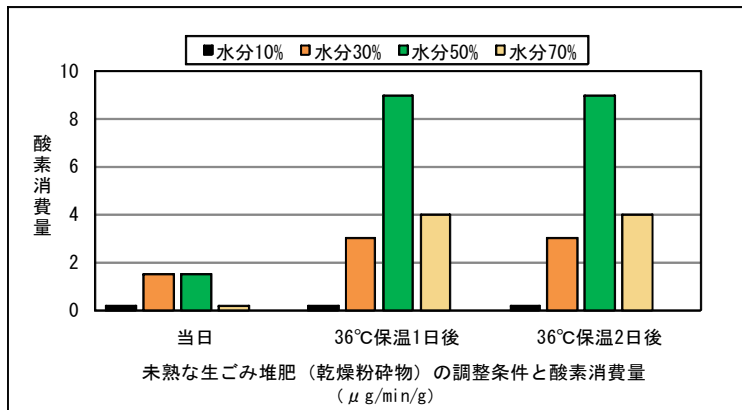


生ごみ堆肥の腐熟度を判定する方法

未熟な生ごみ堆肥では微生物の呼吸量（酸素消費量）が高く、腐熟が進むにつれて低下していきます。このことから酸素消費量の測定は腐熟度判定の一つとして利用できます。ただし、酸素消費量を基に腐熟が進んだか否かを判断するためには、堆肥化の最適条件下で測定する必要があります。未熟な生ごみ堆肥を乾燥後粉碎したのに対し、水分、温度条件を変えて酸素消費量を比較した結果、水分50%、36℃で1日培養した条件下において測定するのが適当であることがわかりました。



未熟な生ごみ堆肥を乾燥後粉碎し、水分50%（重量比）、36℃で1日以上培養した条件において酸素消費量が最大になりました。また、粉碎することにより測定値の再現性が高まりました。

